

9120:2016 シリーズ規格

よくある質問とその回答集 (FAQ)

注意事項：この資料は、IAQG の Web サイトに掲載されている FAQ's の資料を翻訳／一部補足したものであり、SJAC 9120A 改正版と同じ表記とは限りません。

翻訳・編集：JAQG 規格検討ワーキンググループ

この 9120:2016 シリーズ規格改正に対するよくある質問とその回答集のリストを作成するにあたり、世界中の専門家及び規格利用者から意見をいただきました。このリストは、正確性の維持と、必要に応じて新しい質問を加えるため、定期的に見直され、更新されます。このリストは、規格の新規利用者に有益な情報源を提供することも目的としています。

変更についての質問(9120:2016)

1. なぜ ISO 9001 及び 9120 規格の新版を発行することが決まったのですか？

事業のニーズ及び期待は、2000 年版 ISO 9001 の最後の改正版から著しく変わりました。これら変化の例として、これまで以上に厳しい要求をする顧客、新しい技術の出現、ますます複雑化するサプライチェーン及び持続可能な開発イニシアチブの必要性に対するより高い認識などがあります。ISO9001 は 2015 年 9 月に改正され、発行されました。9120 規格はベースライン本文として ISO9001 (IAQG 固有の要求事項については斜体かつ太字で追加) を使用しているため、新しい ISO 本文を統合する必要がありました。

2. 誰が 9120 規格改正版へのインプットを提供したのですか？

9120 チームは IAQG 及びそのセクターメンバー会社、IAQG 作業部会及びチーム、供給者、耐空性証明機関、認証/登録機関、防衛産業及び官庁、宇宙事業会社、監督官庁及び貿易グループ組織を含むステークホルダー(利害関係者)にインプットを要請しました。

3. 9120 規格への変更を決定するためにどのようなプロセスを用いましたか？

9120 チームはインプットを求めるためにプロジェクトマネジメントアプローチを使い、次のように改正を管理しました。

プロジェクトマネジメントインプット - 設計仕様書;IAQG 戦略;9120 規格の目標;ステークホルダーインプット;及びウェブ調査インプット

データマイニング及び集約 - コメントと提案をまとめるために使用された MCRT(マスターコメントレビューテンプレート)

レビュープロセス - 設計仕様書に基づく IAQG9120 チームによる提案のレビュー

ドラフトの調整及び投票 - 2015 年 7 月に第 1 回調整ドラフトの配布、2015 年 10 月に 9120 チームレビュー、2015 年 10 月にステークホルダーコメントレビュー、2015 年 11 月に正式な投票の配布、2015 年 12 月に投票、2016 年 4 月に発行。

4. 9120:2016 シリーズ規格は今後も、全ての販売組織 (大規模又は小規模,異なるセクター) 及び異なるアイテム (製品, サービス) に適用されますか？

この規格のコンセプトは変更していません。ビジネスの規模又は業種 (OEM 又はアフターマーケット)にかかわらず、あらゆる種類の販売組織にも適用されます。4.3 で規定しているように規格全体が適用可能ですが、適用不可能なことを正当化することは組織に任されています。この JIS Q 9001 の変更により、適用範囲にない 8.3 “製品及びサービスの設計・開発” などの箇条の適用可能性を決定することは組織の責任となります。以下の質問 15 も参照してください。

5. 規格の構造は、どのように変更されていますか？

構造は、多くの異なるマネジメントシステム規格間での一層の調和を確保するために、ISO が制定した共通の 10 箇条の上位構造に整合するように変更されました。

新しい構造は、PDCA (Plan-Do-Check-Act)の順序で構築されています。全ての ISO マネジメントシステム規格は現在この構造を採用することを要求しています。これは組織が、複数の ISO マネジメントシステム規格の要求事項を一つの統合されたシステムとして取り扱うことを容易にします。

10 の箇条は、1.0 - 適用範囲、2.0 - 引用規格、3.0 - 用語及び定義、4.0 - 組織の状況、5.0 - リーダーシップ、6.0 - 計画、7.0 - 支援、8.0 - 運用、9.0 - パフォーマンス評価、及び 10.0 - 改善、で構成されています。

6. 当社の文書が 8 箇条からなる構造の場合、新しい箇条構造に作り直す必要がありますか？

9120 規格の附属書 A.1 はこの質問に関するガイダンスを提供し、次のように述べています：

- 組織の品質マネジメントシステムの文書化した情報をこの規格の構造及び用語に合わせることは要求していません。
- 箇条の構造は、組織の方針、目標及びプロセスを文書化するためのモデルではなく、要求事項の一貫した提示を提供することを目的としています。

7. 旧版と新版の内容の主な違いは何ですか？

JIS Q 9001 本文の違い

- ISO 指針第一部の附属書 SL に示されている上位構造の採用
- プロセスアプローチの理解及び適用を支援し改善するための、リスクに基づく考え方に対する明確な要求事項
- 規範的な要求事項の最小限化
- 文書化に関する柔軟性及び幾つかの新しい用語
- サービスに対する適用可能性の改善
- QMS の境界を定め、QMS 方針と目標を組織の戦略と整合させるための要求事項
- 組織の状況についての更なる重要視
- 事業プロセスへの QMS の統合を確実にすることを含むリーダーシップ要求事項の増加
- 顧客満足を改善するためのパフォーマンス評価及び望ましいプロセス結果の達成のさらなる重要視
- 変更管理の重要視
- 知識管理の導入

用語の変更

- 製品 -> 製品及びサービス
- 除外 -> QMS の適用範囲
- 文書、記録、文書化した手順 -> 文書化した情報、維持する又は保持する
- 購買製品 -> 外部から提供される製品及びサービス
- 供給者 -> 外部提供者

組織で使用されている用語を、この規格で使用されている用語に置き換えて品質マネジメントシステムの要求事項を明示することは要求していません。組織は、それぞれの運用に適した用語を用いることを選択できます（例えば、“文書化した情報”ではなく、“記録”、“文書類”又は“プロトコル”を用いる。“外部提供者”ではなく、“供給者”、“パートナ”又は“販売者”を用いる。）。

9120 規格追加要求事項の違い

- **製品安全**は、9110 規格と同じく厳選された箇条に追加されています。
- **人的要因 (human factors)** は、不適合/是正処置における考慮事項として追加されています。
- **リスク**は、現在の 9100 要求事項と新しい ISO 要求事項を統合し、それを 9120 規格における適切なリスクの重点としています。
- **予防処置**の現在の箇条要求は“リスク及び機会”及び“不適合及び是正処置”の箇条に統合され、9120

規格の追加事項は予防を強化しています。

- **模倣品**は新たな要求事項として拡大され、厳選された箇条に追加されています。
- **形態管理**はステークホルダーのニーズを取り扱うため、大幅な改善及び明確化を行いました。
- **製品実現と計画**は規格全体にわたって計画の明確化及び強化を行いました。
- **引渡し後の支援**は新しい ISO 要求事項と現在の 9100 要求事項を統合しています。
- **プロジェクトマネジメントと作業移管**は運用の計画の箇条に組み込み、販売業者の状況を反映しています。
- **製品及びサービスの設計及び開発**は、JIS Q 9001:2015 本文に含まれており、“除外”することはできませんが、販売業者の QMS プロセスの範囲でない場合は、4.3 に基づき“適用不可能”であることが正当化されなければなりません。
- **供給者管理**は、IAQG のニーズを満たすために、2009 年版の ISO の内容が幾つかの場所に再び採用されています。
- **品質マニュアル**は注記において、品質マニュアル又は同等のものを作成する要求事項に対する要点を追加しています。
- **管理責任者の要求事項**は QMS に関する監督(oversight)のため再び採用されています。
- **クリティカルアイテム**に使用される材料(素材)に対する試験報告書の正確さの妥当性確認プロセスを追加しています。

8. 文書化の要求事項はどのように変更されましたか？

文書化、文書及び記録は、現在は、まとめて文書化した情報と呼ばれています。その文書化した情報に変更される場合（手順書、作業指示書等の場合のように）、組織は情報を最新の状態に維持することを要求されます。情報が通常は変更されない場合（例えば、記録）、組織はその情報を保持することを要求されます。

特定の文書化した手順はもはや言及されていません。組織のプロセスの運用を支援するための文書化した情報を維持し、プロセスが計画どおりに実施されたという確信をもつために必要な文書化した情報を保持することは組織の責任です。

必要とされる文書化の全範囲は、業務の内容によりますが、以下のように文書化した情報を維持するための要求の例が幾つかあります。

- 4.3-品質マネジメントシステムの適用範囲
- 4.4.2-プロセスの運用を支援するための文書化した情報を維持
- 4.4.2-組織は、次の事項を含む、文書化した情報を作成し、維持しなければならない：
 - 密接に関連する利害関係者の全般的記述
 - 境界及び適用可能性を含む、品質マネジメントシステムの適用範囲
 - 品質マネジメントシステムに必要なプロセス及びそれらの適用の記述
 - これらのプロセスの順序及び相互関係
 - これらのプロセスに関する責任及び権限の割当て注記—この文書化した情報は品質マニュアルと呼ぶことができる。
- 5.2.2—品質方針
- 6.2.1—品質目標
- 8.1.e)-次の目的のために必要な程度の、文書化した情報の明確化、維持及び保持
 - プロセスが計画どおりに実施されたという確信をもつ
 - 製品及びサービスの要求事項への適合を実証する
- 8.7.1—不適合管理プロセス

9. この規格には品質マニュアルについて記載がありませんが、引き続き要求されていますか？

品質マニュアルはもはや明確には要求されていません。新しい規格は、品質マネジメントシステム（QMS）の有効性に必要な文書化した情報の維持を組織に要求しています。これを実施する方法はたくさんありますが、品質マニュアルはそのうちの一つにすぎません。9120 規格（4.4.2）本文には、文書化した情報を品質マニュアルと呼ぶことができることを明確にするための注記が追加されています。組織にとって品質マネジメントシステムを品質マニュアル内に記述し続けることが好都合で適切である場合、それは全く問題ありません。

10. なぜマネジメントレビューを、パフォーマンス評価へ移動したのですか？（9.3）

新版 9120:2016 の順序は Plan, Do, Check, Act サイクルに基づいているので、品質マネジメントシステムのパフォーマンスを評価するために、マネジメントレビューがシステムパフォーマンスの測定に付随することは理にかなっています。

11. 管理責任者という名称は削除されています。システムのパフォーマンスはどのようにしてトップマネジメントに報告されるのですか？

管理責任者という名称は ISO9001 ベースライン本文から削除されましたが、9120:2016 本文に再び採用されています。ISO の意図は、QMS のパフォーマンス報告のために役割と責任が割り当てられることを保証するのは、トップマネジメント次第であるということです。IAQG はトップマネジメントに対し、QMS の監督 (oversight) を行う責任及び権限をもち、品質マネジメントの問題を解決するために、組織上の自由をもち、かつ、トップマネジメントへ制約なく接触できなければならない特定の管理責任者を、組織の管理層の中から任命しなければいけないという要求を再び採用しています。

12. なぜ製品は、製品及びサービスに変更されたのですか？

9120:2009 ではなく、旧版における用語「製品」にサービスも含むことを明確にしていたので、実用面では影響ありません。規格が製造セクター以外で多用されていることを反映し、かつサービス産業でのその適用可能性を強調するために、用語「製品及びサービス」が規格全体にわたって使用されています。更なる情報として、附属書 A.2 と A.5 を参照してください。販売は「サービス」と見なすことが出来るため、この点では適用可能性は変更ありません。

13. リスクに基づく考え方とは何ですか。またなぜ規格に導入されたのですか？

リスクに基づく考え方という用語は、JIS Q 9001:2015 のベースライン本文が、リスクに関わる課題を取り扱う方法を記述するために使用されています。リスクのコンセプトは、望ましくない結果を避けるため、組織のプロセスの計画と事業管理を組織に要求することで、JIS Q 9001 の本文全体に常に記載されていました。組織が提供する製品及びサービスの品質に大きな影響があるプロセスの計画及び管理を一層重視することによって、組織は通常これを実施しています。組織がリスクを管理する方法は、事業の状況（例えば、提供される製品及びサービスの重要性、プロセスの複雑さ、及び起こり得る問題の結果の重大性）によって変わります。リスクに基づく考え方という用語の使用には、リスクの認識が重要であることと、型どおりのリスクマネジメント方法及びリスクアセスメントが、全ての事業状況及び組織に対して必ずしも適切ではないことを明確にする意図があります。リスクに基づく考え方についてのさらなる情報は、附属書 A を参照して下さい。

14. 計画に関しては何が変更されたのですか？

9120:2016 では、組織全体を通じてリスク及び機会、品質目標及び変更の計画を取り扱うことを組織に要求しています。新しい製品、技術、市場及び事業の機会が生じる場合、組織はこれらの機会を最大限に活用することを期待されます。これは、管理された方法で実施され、かつ望ましくない影響を引き起こす可能性がある潜在的リスクとのバランスを保たなければなりません。

15. 組織は JIS Q 9001 の要求事項を除外することを、引き続き認められていますか？

9120:2016 では、組織の品質マネジメントシステムへの要求事項の適用可能性に関する“除外”についてはもはや言及していません。しかしながら、組織は要求事項の適用可能性を決定することができます。新しい規格の全ての要求事項は、適用することを意図しています。その決定が、製品及びサービスの適合性並びに顧客満足の上昇を確実にする組織の能力又は責任に影響を及ぼさない場合に限り、組織はその要求事項を適用不可能と決定することができます。組織によって決定される QMS の適用範囲は、対象となる製品及びサービスの種類を明確に記載し、組織が適用不可能であることを決定したこの規格の要求事項全てについて、その正当性を示さなければなりません。

16. 新版 9120:2016 のメリットは何ですか？

- 規範的なものは少なくし、製品及びサービスの適合性を達成することにより重点を置いている。
- サービス及び知識集約型の組織がより使いやすい。
- より強力なリーダーシップの関与
- 目標設定のためのより体系化された計画

- ・ 組織の結果と整合したマネジメントレビュー
- ・ より適応性のある文書化した情報のための機会
- ・ 体系化された方法の中での組織のリスク及び機会の取扱い
- ・ より効率的なサプライチェーンマネジメントの取扱い
- ・ 全てのサプライチェーン及びステークホルダーの重視
- ・ 環境、安全衛生、事業継続性等の他の要因を取り扱う統合マネジメントシステムのための機会

17. プロセスアプローチとは何ですか？またそれは 9120:2016 でも適用されますか？

プロセスアプローチとは、プロセスとして活動及び関連する資源を管理することによって望ましい結果を得る方法です。9120:2016 の箇条構造は、Plan-Do-Check-Act の順序になっていますが、9120:2016 でもプロセスアプローチは、QMS に対する基本的な概念となっています。詳細は、サポートパッケージモジュール (*Guidance on the Concept and Use of the Process Approach for management systems*) を参照して下さい。

規格内の特定の箇条に関する質問

18. この規格の“適用対象”にある、“顧客又は監督官庁の管理下でのプロセス”とはどういう意味でしょうか？

9120AQMS 規格は、航空、宇宙及び防衛分野の製造及びアフターマーケットの両方を支援します。製造の適用範囲内において、販売業者の顧客は、販売業者が製品を購入し、顧客に販売する製品に対して実施する作業について指示することができます。しかしながら、提供元の選定、承認及び監督(oversight)は顧客に責任があり、実施された作業及び最終的なその作業の受諾も顧客に責任があります。

例えば、材料(素材)を販売業者から調達する顧客が、販売業者から顧客へ出荷する前に熱処理及び非破壊検査を実施した材料(素材)を望む場合、顧客は注文書の中で、Nadcap 又は顧客が承認及び管理している提供元の使用を明文化することができ、販売業者は物流を構築し、納入の際に製造関連文書を含んだ成績書を顧客に提供することができます。これは販売業者の 9120 規格認証に違反するものではありません。

AQMS9120 規格がアフターマーケットで利用されるケースとしては、航空、宇宙及び防衛のエンドユーザーへ部品を販売する業者（ブローカー）が、しばしば中古製品から“コア(主要部品)”又は救済可能な部品を調達し、適切に承認された設計データ及び法令・規制要求事項に従って“修理又は整備”を行う場合があります。この修理又は整備作業は、製品の耐空性を判断する権限と能力を有する認定事業場(販売業者ではない別の組織)が、その権限及び指示のもとで全て行い、販売業者がトレーサビリティ及び耐空性を示す記録を維持しているが耐空性の判断を下さない場合に限り、この業務は 9120 規格認証のもとで実施可能です。

19. 9120 規格は、販売業者が外部提供者へ製品の製造を契約／外部委託することを許可しますか？

販売業者が自ら製造元又は製造の外部委託先の選定を行い、製造プロセスを管理し、本質的に付加価値を付ける場合—これは 9120 規格の適用範囲外になります。

販売業者が、監督官庁の管理下でのプロセス（例えば、認定事業場での修理／オーバーホールなど）、又は承認された提供元で顧客指定されたプロセス（例えば特殊工程など）を調整してもよい—これは 9120 規格の適用範囲内になります。

20. 9120:2016 の中で“分割”を構成するものは何ですか？(3.7)

9120:2016 は分割を“製品の特性又は適合に影響を与えずに行う、物理的な、又はバッチ(ロット)数量による製品の分割”と定めています。“物理的に”という言葉によって、製品に実施してもよい作業の制限に関する幾つかの質問が出るという問題がしばしば発生するため、分割作業の間に製品の適合又は特性に影響を与えずに行うことという説明が付け加えられました。“キット化”又は製品の大きなバッチを少量の出荷数量に分割するプロセスは、販売業者の従来の役割になります。

実際の問題として、工場で製造するチューブ、シート、棒材又は長尺物の材料(素材)の供給者、若しくは大容量の容器で納品される接着剤や液体を扱う供給者、或いは、大きなリール(スプール)にまかれた線材を扱う供給者等があり、顧客は使用する分だけの少量を求めます。そのため、販売業者は、製品の特性若しくは材料の適合に影響しないより小さな単位に‘切る若しくはその他の方法(特殊工程ではない)’で製品を小分けします。

21. 組織の状況とは何を意味していますか？(4)

これは、顧客に引き渡される製品及びサービスを提供する方法に対する組織のアプローチに影響を及ぼす、内部及び外部の要因の組合せです。

外部の要因には、例えば、国際、国内、地方又は地域のレベルでの文化、社会、政治、法令、規制、金融、技術、経済及び競合環境を含めることができます。

内部の要因には、組織の企業文化、ガバナンス、組織の構造、技術、情報システム及び意思決定プロセス（公式及び非公式両方とも）が一般的に含まれます。

22. 利害関係者に関連するニーズ及び期待には何がありますか？(4.2)

組織は、4.2で概説されているように、品質マネジメントシステムに関係する一般的な利害関係者及びそれら利害関係者の要求事項を決定する必要があります。これは、過去の品質マネジメントシステム要求事項及びこの国際規格の適用範囲を拡大するものではありません。

適用範囲で規定しているように、この国際規格は、組織が顧客要求事項及び適用される法令・規制要求事項を満たした製品及びサービスを一貫して提供する能力を有することを実証する必要がある場合に、及び顧客満足の上を目指する場合に適用できます。

23. QMS のリスクは 9120 規格に含まれますか？(6.1)

9120 規格はリスクに基づく考え方を促進します。組織の品質マネジメントシステムを計画する際、6.1でリスク及び機会の特定を取り扱っています。箇条6に加え、リスクは9120規格の箇条1,4,5,8,9,10及び附属書A.4の中でも説明されています。

24. 組織の知識とは何を意味していますか？(7.1.6)

組織の知識は、組織に固有な知識であり、それは経験によって得られます。それは、組織の目標を達成するために使用され、共有される情報です。組織の知識に関する要求事項は、知識の喪失から組織を保護し、組織の事業状況の変更時に新しい知識を獲得することを組織に推奨する目的で導入されました。

25. 9120 規格(3.6)の製品安全とはどのような意味ですか？

製品安全とは、9120 規格の箇条 3 において、“製品が人々への危害又は財産への損害に至る許容できないリスクをもたらすことなく、設計した又は意図した目的を満たすことができる状態を維持すること。”と定義されています。

製品安全は以下の箇条で述べられています：7.3（認識）、8.1（運用の計画及び管理）、8.4.3（外部提供者に対する情報）。これら全ての箇条では、製品を使用する人々への許容できない悪影響、及び製品使用中に起こり得る潜在的な危害がないように、製品の状態を保つために従業員の認識を確実にする組織の責任について述べられています。（例えば、ESD,FOD,保管期限管理,保管及び取扱いの状態）

26. 9120:2016 では、設計及び開発は販売業者に“適用”されますか？(8.3)

サービスの提供を中心業務とした組織も含むように、JIS Q 9001:2015 は変更されました。販売業者は、単に製品を顧客に提供するだけでなく、“サービス提供者”になることがあるため、組織によってはこの箇条を含むことが適切な場合があります。（上記 質問 15 を参照してください）。販売業者が提供するサービスの中には、販売業者が顧客のために“設計及び開発”するサービスが含まれていることがあるため、販売業者によるそのサービスの提供という観点から、適合することの証拠を提示することが期待されます。これは、販売業者が提供するサービスの大きさ及び種類にもよります。8.3 の適用可能性は、販売業者が顧客に提供するサービスの複雑さにもよります。JIS Q 9001:2015 附属書 A.5 を参照して下さい。

27. なぜ購買は、‘外部から提供されるプロセス、製品及びサービスの管理’に変更されたのですか？(8.4)

この変更は、従来、組織が取得する製品、サービス又はプロセスの全てが、必ずしも購買されていないという事実を反映しています。例えば、資源の共同利用の一部として、企業体の他の部門から取得するものや、慈善事業者によって寄付される製品又はボランティアによって提供されるサービスである可能性があります。

28. 引渡し後の活動とは何を意味していますか？また組織の責任はどの程度ですか？（8.5.5）

これは、顧客との取決め又は他の要求事項に基づいて、組織は引渡し後の製品又はサービスに対する支援(例えば、問合せ対応又は保証)を提供する責任をもつことがあることを意味しています。

29. 改善と継続的改善との間には規格の中でどのような違いがありますか？（10）

9120:2009 では、継続した活動であるという事実を強調するために、用語「継続的改善」を使用していました。しかしながら、組織が改善する方法は幾つかあることを認識することが重要です。小さなステップの継続的改善はその一つにすぎません。その他には、現状を打破する改善、リエンジニアリングの推進又は革新を含みます。そのため、9120:2016 ではより一般的な用語「改善」を使用し、継続的改善はその中の一つであり、唯一の構成要素ではありません。

30. 8.5.1 項における、“旧式化・枯渇(obsolescence)の結果”とはどういう意味ですか？

この規格の“旧式化・枯渇(obsolescence)の結果”では、販売業者が在庫の枯渇(obsolescence)(例えば、保管期限切れ製品、使い捨ての取替え可能な部品番号、製品の版・形態レベル、保存処理期限を過ぎた梱包資材)及び意図しない使用又は販売が発生した場合の結果について考慮する必要があります。例えば、枯渇(obsolescence)の管理方法には、バッチ/ロット管理、製品へのラベルの貼付手順、保管期限の管理手順、在庫サイクル監査手順、などが挙げられます。

全般的な質問

31. 9120 規格の目的は何ですか？

品質マネジメントシステムの要求事項に関する 9120 規格は、製品製造業者及び航空、宇宙及び防衛のアフターマーケットの両方を支援する販売組織によって使用されることを意図しています。この規格の使用は、品質、スケジュール及びコストに関するパフォーマンスの改善をもたらします。この規格は、主に航空、宇宙、防衛産業向けに作成されたものですが、他の産業界においても使用することができます。

この規格は、JIS Q 9000 に規定されている品質マネジメントの原則に基づいています。この規定には、それぞれの原則の説明、組織にとって原則が重要であることの根拠、原則に関連する便益の例、及び原則を適用するときに組織のパフォーマンスを改善するための典型的な取組み例が含まれています。

32. 9120 規格（展開情報を含む）及び IAQG で発行された他の規格に関する詳細はどこで調べることができますか？

IAQG ウェブサイト(<http://www.sae.org/iaqg/organization/requirements.htm>)で調べることができます。

33. 9120 規格の更新は誰が担当していますか？

国際航空宇宙品質グループ (IAQG) は、9120 規格の開発及び維持を担当しています。詳細は、IAQG ウェブサイトを通じて 9120 チームに連絡してください。

34. JIS Q 9001 の本文と 9120 規格の本文の違いはどのように分かりますか？

航空、宇宙、防衛固有の追加事項は斜体かつ太字で表記しています。

登録

35. どのくらいの期間で 9120 : 2016 に移行する必要がありますか？

JIS Q 9001 と 9120 規格の両方の認証を取得している組織は、新しい 9120 : 2016 規格への移行を、2015 年 9 月 (ISO9001 の発行日) から 18 ヶ月間とします。企業は、予定された審査サイクルの中で移行することが推奨されます。

36. 審査員及び登録者の訓練は利用できますか？

はい、承認された航空宇宙審査員の移行訓練 (AATT) が実施されており、それは 9100,9120,9101 規格の訓練で構成されています。

37. 新しい 9100,9110,9120, 及び 9101 規格の複製はどこで入手できますか？

国内及び地域の標準化団体が多くあり、それぞれに独自の公開予定要求があります。セクター標準化団体は以下のとおりです：

- SAE (アメリカ): <http://aerospace.sae.org/>
- ASD (ヨーロッパ): <http://www.asd-stan.org/>
- SJAC (アジア/太平洋): http://www.sjac.or.jp/en_index.html

38. 当社は現在 9120 規格に登録されていますが、新しい適用範囲の記述に基づいて、9100 又は 9110 規格に登録する必要があります。これは登録を変更する必要があることを意味しますか？

組織が 9120 : 2016 の“適用対象”の記述に合致しない場合は、9100 又は 9110 規格 [保守(整備)] の使用を考慮する必要があります。追加登録の要求事項は、顧客及び法令・規制要求事項によって決定されます。企業の製品が幾つかの規格の適用範囲を満たす場合（すなわち、製品を製造及び整備サービスを販売する会社）、複数の規格登録が必要になる場合があります。1.2 では、9100, 9110, 及び 9120 規格の新しい適用可能性に関する記述の概要を説明しています。

39. 9120 規格に使用されている用語の定義は何で調べることができますか？

IAQG Dictionary(用語集)には、幅広い定義及び ISO 9000:2005 における定義が含まれています。9120:2016 は、規格に定義を追加する代わりに、それらの情報源の両方を使用しています。

40. IAQG 品質規格を実施することによるメリットは何ですか？

- IAQG メンバーは、社内及び供給者と共に規格を使用することによって、一つにまとめ、変動を最小化し、資源を共有し、重複及び無駄を削減することができます。
- 全てのサプライチェーン及びステークホルダーの重視
- 真の意味での国際的な航空宇宙の強調及び調和
- 低コストで高品質の製品
- 顧客固有の文書の削減
- 第三者機関による承認システム
- 供給者の承認状況のデータベースを共有。(承認組織は OASIS に記載される)
- 監督官庁による認知
- “ベストプラクティス(最善の慣行)”の公開共有
- 供給者とプライム企業の品質管理者/管理責任者とのネットワーク形成
- 迅速な合意と展開